

ISSN 0389-7494

会誌

創設65周年記念と故植木・坂下両先生の特集号

第 31 号

平成 3 年 3 月

富山県生物学会

感謝状



故 植木忠夫先生



故 坂下栄作先生

両先生は富山県生物学会の発展のためによく尽して下さいました。

ここに会員一同と共に厚くお礼申し上げ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

巻頭言

会長 本多啓七

わが富山県生物学会は、本年度で創立65周年を迎えました。その記念事業として、会員各位のご協力、ならびに理解ある各機関の温いご援助によって、特別講演、写真展、宿泊研修などの思い出の多い記念事業を完了することのできたことを会員各位と共に慶祝する次第であります。

本学会は65年前の創立以来、時代の変遷につれ、いろいろと会の運営について苦勞のあったことを体験して来ました。最初は富山博物学会の名称で発足しましたが、それを富山生物学会と改称し、さらに富山県生物学会とした理由にも深い意味のあったことを想い出し、当時のいろいろな事柄が走馬燈のように甦ってきます。また研究内容においても今日ほど郷土の自然を凝視すると共に、世界の自然界の変動にも注目すべき時代への大転換期へと飛躍している時代はないと思われれます。例えばベトナム枯葉作戦による大被害、最近では原油放出によるペルシャ湾の生物死滅による大問題などは、地球生物が太陽と地球によって誕生した“緑の生命”を人類の英知がもたらした科学と技術によって破壊し、人類滅亡へと追いやっているとも考えられてなりません。しかし科学は人類の発展のためであることを忘れてはならないと思います。そのためには21世紀の新しい発想と実践が今後一層必要になってきました。

この重大な時期に本会の発展のために尽力された名誉会員の植木忠夫先生ならびに坂下栄作先生を失ったことは誠に残念なことであります。ここに会員各位と共に両先生のご冥福を心より祈念する次第であります。

いよいよ時代は新しい人類発展のための発想と実行を必要とする世紀となりました。本学会においては創立65周年を記念として会誌31号を特集号にして発刊するに至りました。これを転機として会員各位の努力によって今後更に飛躍的な発展がなされることを深く祈念してやみません。